

# 令和2年度 自己評価の結果について

学校法人旭川カトリック学園 羽幌藤幼稚園

## 1. 本園の教育目標

キリスト教的な愛を基本とする宗教的な雰囲気の中で、幼児一人一人と向き合い、人格形成に最も大切な時期に、はっきりとした道徳観をもてるようにする。また、戸外遊びなどを通じ主体的の遊ぶ活動を意図的に取り入れ、幼児自身が持つ可能性を最大限に伸ばすことを基本にした保育計画を作成し保育を行う。

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- \*カトリックの教育理念の理解に職員で取り組み、保育内容や指導のあり方についても職員間での話し合いを深め指導計画に反映させる。保育計画については保護者にも知らせ、共通の認識をもって保育にあたる。
- \*縦割り保育を実践する中で家庭的な園での生活を心がけ思いやりの心を育てる。また、年齢別保育では、年齢の発達に合った計画を行い、発達を考慮しながら進める。
- \*満3歳入園児に対して柔軟に対応し、初めての集団生活にスムーズに入れるよう一定期間の満3歳児クラスの配置や連絡ノートを活用し個別の対応に配慮する。
- \*園庭や園外保育を通して戸外遊びを充実させる。
- \*地域の資源や公共施設訪問などを行い、地域の環境を生かした保育の実践を心がける。また、老人施設訪問なども継続して取り組んでいく。
- \*支援を必要とする幼児に対して、職員を配置し、療育機関との連携を深め、保護者には園での様子を伝える連絡ノートを活用しながら一人一人に配慮した保育を行う。
- \*教師一人一人が幼児と向き合い、きめ細かい保育ができるよう、また保育チームとして情報を共有し、自己研鑽を心がけ資質の向上をはかる。
- \*小学校との相互の連携を深め、就学に向けてスムーズな移行を行う。
- \*保護者への情報提供を遅延なく行い、個人情報に留意しながらホームページやブログなどの充実を図る。
- \*卒園児を対象とした学童保育（のびのび）を継続し、子育て支援の機能を充実させる。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1 教育目標・教育方針 建学の精神にあるキリスト教理念を理解している。 教育目標と教育方針を理解して保育に当たっている。	教育目標にあるキリスト教的愛を基本とする雰囲気作りに努めるとともに、保育計画の中にも反映させて保育に当たってきた。教職員全員で定期的に会議の場を設けた。

<p>2 教育課程・指導計画</p> <p>幼稚園教育要領を理解し、教育目標に反映させながら保育計画を作成している。</p> <p>指導計画を反省、評価し改善している。</p> <p>指導計画は幼児の興味や関心、これからの生活などを考慮して作成している。</p> <p>指導計画は、保護者にも周知し、家庭との連携をもって取り組む。</p>	<p>行事などは子どもたちが主体的に取り組めるように、十分な時間を掛けることにより、少人数ではあっても成果は達成できたと思う。園での取り組みが家庭にあっても理解いただけるよう2週ごとの週案やホワイトボードで提示することにより、子どもたちが、期待感を持って登園し、先の見通しを持って活動できるよう継続した。家庭においても園と連携して子どもたちの成長を願っていると感じた。</p>
<p>3 環境構成</p> <p>幼児の興味や関心、実態に即した環境を構成している。</p> <p>季節や周囲の自然を生かした環境を構成している。幼児の主体的な活動の合わせて適切に環境を再構成するようになっている。</p> <p>施設、設備を日常的に点検し安全を確保する。</p>	<p>幼児の興味関心を的確に捉え、環境構成を行うよう努力した。廊下に季節ごとの行事等の写真の掲示や季節ごとに子どもたちが作った作品をばら組壁面に展示するなど、季節を感じるよう工夫した。また、コロナ禍の制限もあったが、園庭遊びや保護者の協力で園舎や園庭のみにとられず、少人数の機動性を生かし、地域の資源を生かしながら、園外保育等を行った。</p>
<p>4 宗教教育</p> <p>宗教的な環境を大切にしている。</p> <p>祈りを大切にし、神様を賛美し感謝する心が育つよう、また、人を思いやる心が育つよう心がけている。</p> <p>園児に対して宗教講話が定期的に行われている。「がまん・しんせつ・おいのり」を保育の中で生かしている。</p>	<p>朝のお祈り、食前後お祈り、帰りのお祈りといつもお祈りによって始まり、終わる幼稚園であるよう心がけている。お祈りに対しての保育者の意識的な言葉がけを行い、お祈りできるよう促した。</p> <p>聖堂でのお祈りの時間を大切にしている。宗教講話は、全園児参加で行っている。聖書の題材をもとに紙芝居などを使い行っているが、言葉等さらに工夫が必要である。</p> <p>今後も「がまん・しんせつ・おいのり」が子ども達に浸透していくよう指導していきたい。</p>

<p>5 保育の内容・方法・</p> <p>健康のための食育や生活習慣を育て、自分を大切にしてい、他の人や社会の喜びを持たせる。</p> <p>友達と共感し、助け合い、協同でやり遂げる喜びを持たせる。特に弱い者や小さい者を大切にす。</p> <p>保護者、祖父母、地域等の、幼児を取り巻く人々の愛情に気づかせ、家族、高齢者とのふれあいを大切にす、人々に出来ることを実践する。</p> <p>自然界の不思議に関心を持たせ、畏敬の念と、自然を大切にす心、探求し思考する喜びをもたせる。</p> <p>動植物との触れ合いを多くし、生命を大切にす心や感謝する心、豊かな心情を育てる。</p> <p>言葉を注意深く聞き、心を開いて話し、紙との対話である祈りのための沈黙や静けさを大切にす心育てる。一人ひとりの個性を大切にす自己表現を助け、美しいものにたいする感性や創造性を援助する。</p>	<p>縦割り保育を実践する中で、思いやりや生活習慣の自立を心がけ保育を行う事が出来た。</p> <p>コロナ禍の影響で例年行ってきた行事の中止や変更により十分に行えなかった点もあった。</p> <p>稲刈りを見学し、収穫後には新米をいただき、一人ひとりおにぎり作りを楽しんだ。また、タコやマグロを見学した後、食したことで食への関心を持たせることができた。餅つきなど保護者や地域の方の協力を得て実施した。</p> <p>恒例となった老人施設への訪問は、中止せざる得なかったが、今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>今年度は、オタマジャクシの採取に行くことが出来なかったが、園で飼育し身近な生き物にふれあう機会を設けた。また、鮭の遡上見学など地域の資源を活用した取り組みを行った。</p> <p>冬の外あそびは、父親の会で造っていただいたスロープやかまくら、迷路などで遊ぶことが出来た。</p> <p>警察による交通安全指導、消防署見学での訓練見学など地域の方の協力をいただきながら取り組んできた。年長児は警察の「ひまわりの種プロジェクト」に参加し種植え、そして大きく咲いたひまわりを見学と交通安全意識の向上につながった。</p> <p>また、支援を必要とする幼児に対し、療育機関と連携し、個別の支援計画を作成し、保護者との連絡ノートに園での様子を画像とコメントで知らせ、きめ細かい支援を行った。</p> <p>満3歳児入園の幼児に対しても園に慣れるまで個別の対応を行い、連絡カードなどを使い保護者との信頼関係を築き、スムーズに園生活が送れるよう配慮した。また、幼児に合わせ、柔軟な対応を行い、支援を必要とする幼児に対しては個別の対応ができるように、職員を配置し対応した。職員全員で課題を話し合い取り組んだ。</p>
--	--

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

キリスト教理念や建学の精神は共通認識をより一層築けるよう、さらに取り組んで深めていきたい。

縦割り保育は継続する中で、異年齢での生活が元となり思いやりの心が育まれている。新入園児も年長年中児との関わりのなかで園生活に慣れていくことができた。自由遊びや保育室の活動の中でも育んでいる。今後も引き続き園の特色として進めていきたい。

行事等においても早い時期から取り組み（マーチング・生活発表等）、全体がスムーズに流れるように配慮した。

コロナ禍の影響で中止した行事もあったが、運動会、お店屋さんごっこ、もちつきとご参加いただき、より一層家庭的な園の雰囲気作りとなった。保護者の皆様のご理解と協力に感謝している。

支援を必要とする幼児に対して、個別の対応をすると共に、保護者が安心して預けられるよう信頼関係を築いた。

保育計画や内容については、幼児の興味や関心を的確に捉え取り組むよう努力してきた。今年度  
年長で、専門家の指導の下コーディネーショントレーニングを（月2回程度）取り入れ、楽しみながら運動能力、運動神経の向上を図っている。

幼小の連携については、状況を考慮しつつ小学校への行事参加も取り入れながら、幼稚園の行事についても呼びかけていきたい。

ホームページをリニューアルする方向で準備を進めている。今後もブログの発信と合わせ充実させるようにしたい。

学童あずかりも5年目を迎え、卒園児に限定はしているが、10名ほどの児童が利用している。今後も安心安全を心がけ、子どもたちが安らげるよう、保護者にあつては安心して預けることができるよう運営していきたい。

#### 5. 財務状況

太陽有限責任監査法人による監査を受け、適正に運営されていると認められている。

また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び本園の財務状況は率的な運営にあたっている。

## 保護者・関係者の意見欄

先生方が同じ考え方、教育方針を大切にしているので保護者もぶれることなく安心してお任せできました。特に子どもや保護者が園に合わせるのではなく、園が、先生方が、その家庭家庭に向き合い寄り添う姿に感動しています。

コロナで様々な行事の制限があった中、これまでの活動を例年通り行おうとする先生方の姿に胸が熱くなりました。今まで以上の準備や配慮をして、とても大変だったと思います。特にお餅つきの細やかな心配り、アイデア 目からウロコでした。先生方の情熱 素敵です。

目先の運動活動にとらわれがちですが、今注目されているコーディネーショントレーニングを取り入れてすごいですね。

縦割り保育で、助けられること 信頼されること たくさんの優しさを頂きました。これまで出来ないこと 苦手な事を指摘されて、避けていたこともお兄さん、お姉さんが励ましてくれることで乗り越えられたことがありました。縦割り保育の良さを実感しました。

いつもありがとうございます。子どもに寄り添って安心した場所を作ってくれていることに感謝しています。

未満児や年少児が泣いていたり、困っていたら自然に手助けをする年中・年長児が、とても素晴らしいと思う。縦割り保育で思いやりが育っている証拠だと思う。

嫌な事、苦手な事も無理せず見守っていただき、それが出来たらとてもほめてもらえ、子どもにとって大きな自信につながっています。

卒園しても学童で見てもらい、ここでもできたらほめてもらい、また色々な話を聞いてもらえて家の次に安心できる場所であるようです。

「小学校入学前に養っておきたい10の姿」について どんな場面で、どのような手段で身につけさせていくか……のようなことが評価項目のどこかに位置付けられていると、評価もしやすくなるのではないかと感じているところです。

藤幼稚園ならではのキリスト教理念を行事や日々の生活の中で取り入れていることで、子ども達の中にも浸透していると思われる。今後も祈りや静粛さを大切に園の特色として活かして欲しい。

コロナ禍の影響で休園や行事の縮小や短縮もあったが、感染拡大の予防を徹底しており、大きな混乱はなかったと思われる。生活スタイルが変化する中、幼稚園においても衛生面など新たな習慣を取り入れていると思う。

## 保護者・関係者の意見欄

園児と教諭との関係や親との関わりも親密にできることで、より良い信頼関係が出来ると思われます。教師と親とのコミュニケーションを充分に取ることによって、子ども達へのよい環境が構築されていくことを望みます。

コロナ禍で地域のイベント等には積極的に参加することも難しいが、地域との関わりを大切にしたい。身近にある自然との交わりが行われていることは、子ども達にとって貴重な体験になるだけでなく、地域の結びつきや故郷の愛着を育むものであり今後も継続してほしい。

施設の改修も終わり、花壇、園庭、室内施設等も十分な手入れが成されており、コロナに対応する整備等も含めて子ども達にとってもよい環境で生活が出来ていると思う。

近年園児の減少が見られますが、小さな園だから「出来ない」のではなく、小さい園だからこそ「出来る」ことが多くあると思われます。

年間を通して園全体が温かい雰囲気、毎日きめ細やかな対応をしていただき感謝している。

仲の良いお友達がいなくなり、幼稚園に行く気持ちになれなかった時も、職員室での個別対応をしていただき、先の見通しを持てるような工夫や、自信を持てるような活動や声掛けのおかげで、また毎日元気に通えるようになった。

トイレにも心配があったが、決して焦らせる事なく、本人の気持ちを最大限尊重していただき、少しずつ前進する事ができた。

毎日の園での様子も、写真付きのノートで報告していただき、大変ありがたく、親にとってもノートを見るのが楽しみになっていた。一年間、毎日安心して幼稚園に通わせることが出来た。